

いまどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

予防接種、時価
おかしな日本の保険年金制度を象徴する、
この冬のインフルエンザ珍事

昨年のSARSパニックの影響からか、この冬はインフルエンザウイルスの予防接種を受ける人が激増（※インフルエンザ予防接種はSARS予防にはまったく関係なし）。ところがインフルエンザ予防接種は健康保険の対象外で自由診療扱い。大手病院がワクチンを買占めているせいで、街の開業医のもとではワクチンが品薄状態。そのため予防接種の料金に開きが出てしまった。京都市内では安くて2000円、高い病院では5000円という開き。予防接種の料金情報を提供するホームページを見れば、なんと「時価」というのまであった。今、日本は多くの人々が公的年金料を支払っていない状態。国民健康保険料についても、未回収が多すぎる。だが年金には老齢年金だけでなく、障害年金などもある。未加入だと、若くして働けなくなるとは知らない人が多すぎる。誰もがかかる可能性があるインフルエンザの予防接種のように保険対象外が多い日本の保険制度に問題があるのはもちろんだが、年金や保険に対する意識と知識が低い若い世代も問題だぞ。

新選組紀行

碑石や墓ばかりを見て回るより、
混迷の時代の試行錯誤を思う京の旅を

西暦2100年の京都観光



「巴里本舗あたりには「佐竹雅昭通交の地」なんて碑が立っていたりして

「佐竹ツアーが人気

道場前には銅像が立っていたりして

NHK大河ドラマ「新選組！」の放映が始まった。旅行会社は新選組の足跡を辿るツアーを組み、キャンペーンを実施。出版社は新選組に絡めた京都本を続々と出版している。観光シーズンオフと言われる冬の京都であるが、今年はドラマ効果でそこそこの観光客が見込めそうだが、広義の「幕末ゆかりの地」はいろいろあるものの、新選組に限定すれば、さほど見どころは多くなく、ツアーを企画する側でさえ新選組のみに焦点を絞ったプランを立てるのに頭を悩ませるほど。ゆえに、これから京都を訪れる新選組ファンには「〇〇を見る」だけで満足するのではなく、新選組の舞台となった京都に身を置き、同時に思いを馳せるといったイメージ的な新選組紀行を楽しんで欲しいものだ。折しも撲夷からむアテロが多発した幕末とオーバーラップする今の世情。混迷の時代、さまざまな思想が交錯する中、どのように試行錯誤が行われてきたかをじっくり考えてみるのも良いのでは？

現われても怖いが：



こんな開業医か

コイの病

受難続き！京都滋賀の川魚事情 いかに都人が食文化を守ってゆくか？

茨城県で鯉が大量死して以来、コイヘルペスウイルス病に感染したと思われる鯉についての報告が全国から相次いでいる。京都滋賀でも被害が拡大し、伏見や八幡の河川、美山町や大津の民家などでウイルス陽性反応が出た鯉がいると報告されている。コイヘルペスウイルスは今のところ感染経路が不明で、有効な治療法がない。そして死亡率が高い。人間に感染することはないということだが、やはり風評被害が広がり、京都市内の川魚専門店などでは売り上げが減っているようだ。滋賀県でも外来魚被害に悩んでいる上に、この風評被害。まさに受難続きだ。海の魚が手に入りにくいという地理的条件から、川魚料理に親しんできた京都。京都にはたくさん川魚屋や川魚を扱う一流の料亭がたくさんある。まだまだ寒さ厳しいこの季節なら、鯉こくも恋しいし、市場に行けばさまざまな種類の川魚に心ときめく。外来の病気の風評ごときに臆して敬遠するのは、都人として恥ずかしいよね。

風評被害より
ブリゲーターがとかも
川や湖に捨ててるヤツ
絶対やめなヤン！！



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目前。HP◎<http://www1.ocn.ne.jp/~tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>